

人権教材

他にも多数の作品を
収蔵していますので、
是非ご活用ください。



おはようの一言で

〈ビデオ/18分〉

他人との関わりの第一歩は、挨拶やお礼の言葉を大切にすることであると示す作品です。

転校生の少年は、グループ学習の待ち合わせに遅刻したときも、商店街の人にインタビューするときも、何も言えないでいました。しかし、主人公の少年が、毎日「おはよう」と声を掛ける内に、やがて転校生も小さな声で挨拶を返すようになり…。

主人公が根気強く挨拶を重ねることで、少しずつ転校生の心が開かれ、班活動がまとまっていきます。思いやりと挨拶のもつ意味を考える作品です。

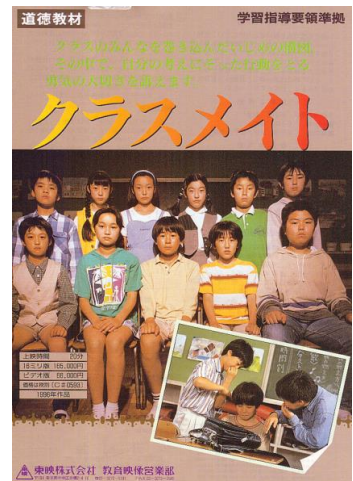
クラスメイト

〈ビデオ/20分〉

クラスのみんを巻き込んだいじめの構図の中で、自分の考えに沿った行動をとる勇気の大切さを訴えています。

小学五年生のあるクラスで、いじめが始まりました。クラスメイトはみんな見て見ぬふりをしています。そんな中、いじめグループで仲間割れが起こり、クラス全体を巻き込んで対立してしまいます。中立の立場を貫こうとする生徒もいましたが、やがてその生徒が新たないじめの標的にされて…。

よりよい学級づくりのためには、互いを尊重しあい、時には勇気を出すことが大切であると訴える作品です。



雲が晴れた日

〈ビデオ/53分〉

祖母の介護問題に直面したある家族が、高齢者、障害者、外国人、同和地区住民だからと差別をしていたことに気付き、それを克服して助け合っていこうとする物語です。

中学2年生の主人公は、両親と三人暮らし。ある日祖母が病に倒れ、介護が必要になります。家族が揺れる中、里帰りした兄が中国人女性との結婚を宣言して猛反対されます。また主人公のクラスでは、事故で車椅子になったクラスメイトが復帰し…。

助け合いとは、互いの人権を尊重してこそ成り立つものであるということを、主人公の視線を通して描いています。

申し込み先: 総合教育プラザ 教育資料室

TEL 027(230)9094 (月~金 9:00~17:00)

FAX 027(230)9099